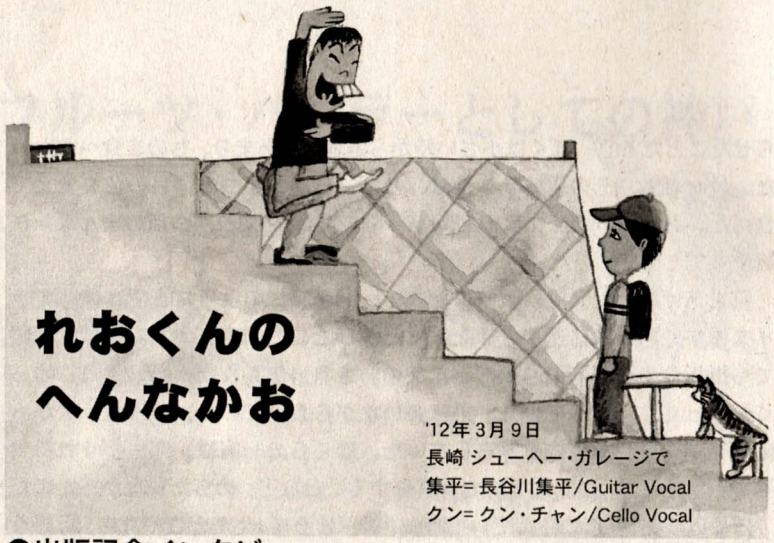

れおくんの へんなかお

'12年3月9日
長崎 シューヘー・ガレージで
集平= 長谷川集平/Guitar Vocal
クン= クン・チャン/Cello Vocal

『れおくんのへんなかお』第2画面。

●出版記念インタビュー

↑『小さなよっつの雪だるま』(ポプラ社)を描き終えて、集平としては間を置かず『れおくん〜』を描き始めた。↓最後のページがどうなるか知らないまま描き進めております。

—— 『小さなよっつの雪だるま』に続き『れおくんのへんなかお』です。短期間に本が出ますね。

集平　こんなの久しぶりだよ。2010年に出したかった『〜雪だるま』が季節待ちで翌年の冬までおあずけになったんで、じゃあその前に1冊作りませんかと編集のMさんに提案したんだ。Mさんはシンプルな絵本が好きみたいだから、彼女とならあっけらかんとした面白い絵本が作れると思って、ダミーを渡したら気に入ってくれた。でも結局2冊出すのは無理で、また宙に浮いたわけだ。

その年の10月に理論社が倒産した。ゆっくりペースで文字組まで進んでた幼年童話三部作は空中分解。実験的な要素がある作品だから、新生理論社で出すにはまた準備がいるだろうね。それで編集のKさんに『れおくん〜』を持ちかけたんだ。そっからはわりと早かったよ。

—— 12月30日に下描きを終えてますね。最後のページだけあえて描かずに……。

集平　新学期前に出したいので逆算して12月には原画入れてくれと言われたのに『〜雪だるま』出版直後でなかなか切り替えができなくて、結局正月明けの1月6日に着色し始めて14日に描き上げた。年末の京都造形の授業で「1月16日の授業に1年間課題で出してた絵本を仕上げて持って来いよ。オレもがんばって仕上げるから」と学生に言った手前、ペースあげて表紙まで描いたのよ。助走が長いけど描き始めると早いんだ。ある程度早く仕上げないと料理と同じで活きの良さがなくなるしね。逆に『ホームランを打ったことのない君に』は時間かかったし慣れない手法で描いたので新鮮な気持ちをキープするのが大変だった。ぼくの気力体力だとアナログなら1〜2週間で仕上げるのがベスト。それ以上かかると絵がどんどん上手くなって最初と最後に差がついちゃう。新しい技法に挑戦しても慣れてくる。

京都に行く前に原画を送って、今は印刷待ち。その間に姫路市芸術文化賞を受賞しました。3月23日の授賞式には君たちも連れてって、理論社のKさんとデザイナーのTさん、ポプラ社のMさんと文研出版を退職したHさんを招待した。その場で前日できたての『れおくん〜』を手にすることになるんだ。ドラマチックだね。

—— 他の人と一緒に初めて見ることになるんですね。

集平　ははは、不思議だよな。

クン　最初から祝福されてるみたいでいいじゃない。故郷に錦ね。

集平　ぼくは姫路という土地を捨ててきたし、長い反抗期みたいに逆らってきた。その故郷から表彰してもらうことになって、意外に嬉しいんだよ、これが。ある種のアイデンティティが確立したのか、これまでになく落ち着いてる。

集平　奥付は4月2日です。最近の絵本は奥付が日付まで書いてないんだよね。ぼくは責任ある出版物として日付まで入れるべきだと思う。そうしないとアーカイブとしての価値がなくなると指摘されたこともある。『〜雪だるま』は11月2日、カトリックの死者の日に

小学生の時に描いた交通安全ポスター。たしか大手前公園に野外展示された。実は字の下書きを父にしてもらった。なぜかレタリングの上手い父。

姫路東高校の中庭で。一緒に中津川全日本フォークジャンボリーに行ったN(左)と。彼は『とんぼとりの日々』の四角い子のモデルでもある。

3/23 姫路市芸術文化賞表彰式。左は市長から賞状をもらうところ。右「姫路お城の女王」が集平の後ろに立つ。

この日に間に合った『れおくん〜』の見本をみんなで見ているところ。これが一番のご褒美だと思いました。